

校長 印		教頭 印		教頭 印	
---------	--	---------	--	---------	--

国語科	科目名	現代文B	担当者	
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第3学年	履修単位	3単位	
概要及び目標	1. 近代以降の様々な文章を読む能力を高める。 2. 適切に表現する能力を高め、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 3. 進んで読書することによって国語の向上を図り、人生を豊かにする態度を育てる。			
評価基準及び方法	1. 授業に取り組む姿勢 2. 定期テストの成績 3. 小テストおよび提出物			
使用教科書及び教材	『新編現代文B』（数研出版） ・ これからの国語シリーズ 漢字検定5～2級+短文書写 実践文字カトリプルチェック（尚文出版） ・ いきいきとアライブ 国語 総合演習・実践対策（浜島書店）			
その他留意点	・ さまざまな視点や立場に立って考える習慣を養う。 ・ 語彙力の向上を図る。 ・ グループワークや発表活動に取り組む。			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法
4	第一章 随想(一) ・ 素直に生きる	・ 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。 ・ 文章を読んで、書き手の意図や情景などを的確にとらえ、表現を味わう。 ・ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。
5	第一章 小説(一) ・ 鉄のしづきがはねる 第一章 評論(一) ・ 進化と適応 第一章 詩 ・ 未確認飛行物体／表札	・ 文章を読んで、場面展開を的確にとらえる。 ・ 場面ごとの登場人物の心情変化を、理由とともにおさえる。 ・ 文体や修辞などの表現上の特色をとらえる。 ・ 文章を読んで、構成や筆者の主張を的確にとらえる。 ・ 文章を読んで批評することを通して、自然や文化について自分の考えを深めたり発展させたりする。
6	第一章 短歌 第一章 小説(二) 山椒魚	・ 短歌を読んで、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。 ・ 作品中の物事がどのようなことを象徴しているかを考える。 ・ それぞれの場面において、山椒魚の心情がどのように

		変化しているかを読み取る。
月	単元名	学習内容と方法
6	第一章 評論(二) ・ロボットと人間の未来	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、構成、展開、要旨、筆者の意図などを的確にとらえる。 文章を読んで批評することを通して、人間、社会について自分の考えを深めたり発展させたりする。
7	第一章 評論(二) ・建築とは何か 第一章 小説(三) ・こころ	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。 文章を読んで、筆者の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。 文体や修辞などの表現上の特色をとらえる。
9	第一章 随想(二) ・若き友人たちへ ・伝える極意 第一章 小説(一) ・山月記	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。 文章を読んで内容を的確にとらえ批評することを通して、言語によるコミュニケーションについて自分の考えを深めたり発展させたりする。 漢文を駆使した独特の表現を理解する。 主人公の変身にこめられた意味を考え、この小説の主題をまとめ発表する。
10	第二章 小説(一) ・無用の人 第二章 評論(一) ・文化としての色 言語活動 ・研究発表の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、人物像、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。 文章を読んで、展開、要旨などを的確にとらえる。 自分の意見がすぐに伝わる効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。
11	第二章 評論(一) ・子どもの言葉 第二章 随想(二) ・弱いつながり	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。 文章を読んで批評することを通して、社会について自分の考えを深めたり発展させたりする。
12	第二章 評論(二) ・「内的成長」社会へ	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで批評することを通して、人間、社会について自分の考えを深めたり発展させたりする。

	・ホンモノのおカネの作り方	・文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえる。
月	単元名	学習内容と方法
1	第二章 詩 ・発車／永訣の朝 第二章 俳句 ・俳句 第二章 文学の扉 ・明治の名作 森鷗外『舞姫』 あらすじ	・文章を読んで、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。 ・文体や修辞などの表現上の特色をとらえる。 ・俳句を読んで、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。 ・文章を読んで、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。
2	言語活動 ・報告文の書き方	・簡潔でわかりやすい表現で、具体的で正確な報告文を書く。

校長 印		教頭 印		教頭 印	
---------	--	---------	--	---------	--

国語科	科目名	国語表現	担当者	
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第3学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。			
評価基準及び方法	1 ワークおよび課題の取り組み 2 小テスト及び課題提出 3 授業に取り組む姿勢			
使用教科書及び教材	教科書 国語表現（大修館書店）			
その他留意点	積極的に授業に参加する。			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法
4	やってみようソーシャル・スキルトレーニング ○ビンゴゲーム [自我理解を育てる] ○聖徳太子ゲーム [言語コミュニケーション] 人づくりのワーク ○にぎやか商店街 ○川を渡る女	<ul style="list-style-type: none"> 人と出会うときのコミュニケーションの方法について学ぶ。相手へのインタビューを通してお互いを知るワークをする。 傾聴について学び集中して聴くとはどういうことかを知る。 グループワークで情報の共有の仕方について学ぶ。それぞれが持っている情報を提示し、わかりやすくまとめ、秩序立てていく。 こだわりや価値観について知る。ある物事に対してさまざまな視点や価値観から物事をとらえられることに気付く。
5	人づくりのワーク ○セルフエスティーム ○フレンドサポート	<ul style="list-style-type: none"> 他者との関わりで、自分がどのタイプの傾向にあるのかを知る。相手も自分のOKという姿勢や視点について学ぶ。 他者との関わり方について考える。頼られたり相談を受けたりした場合の関わり方について知る。
6	1 書いて伝える ○整った文を書く ○わかりやすい文を書く ○文のつなぎ方	<ul style="list-style-type: none"> 誤りがなく読みやすい整った文を書く学習し、わかりやすい文にするための留意点を学ぶ。 文と文のつなぎ方に着目して学習する。
7	3 自己PRと面接 ○自分を見つめて	<ul style="list-style-type: none"> 過去や現在をしっかりと見つめ、自分はどんな人間なのかを考

	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的な自己PR ○将来の自分を考えよう ○志望動機をまとめよう ○面接にチャレンジ 	<p>え、自分の魅力や特徴をわかりやすく印象的に伝える練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す内容や質問をあらかじめ想定し、友人と役割分担して、面接の練習をする。
9 10	<p>2 小論文・レポート入門</p> <ul style="list-style-type: none"> ○レポートを書く ○小論文入門 	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文・レポートの基本的な書き方を学ぶ。 ・資料から読み取ったことをふまえて小論文を書く練習をする。
11 12	<p>4 メディアを駆使する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電話を使いこなす ○ネット社会とコミュニケーション ○メディアと情報 ○通信文を書き分ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを豊かにするために、多彩なツールの特徴や、使うときの留意点を知る。 ・それぞれのメディアの特徴を理解し、情報を吟味しながら活用する姿勢を身につける。 ・いろいろな通信文の書き方と使い分けを学ぶ。
1	<p>5 声とコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉のストレッチ体操 ○ショートスピーチをしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞く」「話す」「伝え合う」ことの基礎的な力を培う。 ・自分の伝えたいことを、堂々とわかりやすく伝える練習をする。
2	<p>7 会話・議論・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手や場面に応じた会話 ○プレゼンテーションの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じた話し方を学ぶ。 ・プレゼンテーションの方法とコツを学ぶ。

シラバス（現代社会）

校長印		教頭印		担当印	
-----	--	-----	--	-----	--

沖縄県立浦添工業高等学校

令和5年度シラバス

公民科	科目名	現代社会	担当者	
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第3学年	履修単位	3単位	
概要及び目標	現代社会の基本的な問題について主体的に考え、判断し、自らの生き方を考察する基礎を養う。			
評価基準及び方法	○各学期の中間及び期末考査 ○論述レポート ○『新現代社会ノート』記述 ○プリント（ファイル）まとめ ○授業態度・意欲			
使用教科書及び教材	教科書『高等学校改訂版 新現代社会』（第一学習社） 副教材『高等学校改訂版 新現代社会ノート』（第一学習社）			
その他留意点	情報を適切に判断し活用する能力を身につけ、社会の課題を身近な問題として認識させ、自らの意見を持たせる。			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	第1編 私たちの生きる社会 1. 環境と私たちの生活 2. 資源エネルギー問題 3. 科学技術の発達と倫理 4. 高度情報社会	世界の様々な課題を概観し、私たちが暮らす社会への考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基本的姿勢を育成する。	
5	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 1. 青年期と自己の形成 ①青年期 ②伝統や文化との関わり ③社会との関わり、生きがい	人生の中で青年期はどのような意味をもつのか考え、青年期におけるさまざまな悩みと、それを克服するためにはどのようにすればよいか考えることを通して、生涯にわたって学習していくことの意義を考える。	中間考査
6	2. 個人の尊重と法の支配 ①個人と国家 ②法の支配 ③基本的人権の尊重 3. 現代民主政治と政治参加の意義 ①日本国憲法の基本原理	私たちの生活と政治や国家のかかわりについて関心を高め、国家はどのような考え方を背景につくられたのかを理解する。また、基本的人権が保障されるにいたった経緯を、さまざまな情報手段で資料を収集し、具体的事例をあげて考察し、理解する。	期末考査

シラバス (現代社会)

7	<ul style="list-style-type: none"> ②平和主義と安全保障 ③基本的人権の尊重 ④新しい人権 ⑤国会の運営と権限 ⑥内閣と行政の民主化 	<p>議会制民主主義とはどのようなものか、国権の最高機関である国会について理解し、議院内閣制のしくみ、内閣の組織と権限について理解し、行政の民主化のために何が必要か考える。</p>	
9	<ul style="list-style-type: none"> ⑦裁判所と人権保障 ⑧地方自治と住民福祉 ⑨選挙制度と世論形成 <p>4. 国政政治の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国家主権と国際法 	<p>裁判員制度を含む公正な裁判のための制度について理解する。</p> <p>主権国家とはどのようなものか、国際社会における国際法の役割と限界について理解する。</p>	中間考査
10	<ul style="list-style-type: none"> ②第 2 次世界大戦後の世界と国際連合の役割 ③核兵器の廃絶と国際平和 ④国境と領土問題と日本 <p>5. 現代の経済社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ①経済と生活 	<p>第二次世界大戦後の国際社会と冷戦終結前後の国際社会の状況について、年表を使って整理し、理解する。</p> <p>国境と領土問題や日本の領土問題について、教科書の写真・地図を使用して理解する。</p>	期末考査
11	<ul style="list-style-type: none"> ②経済体制 ③市場と経済 ④財政の仕組みと金融 ⑤戦後日本経済のあゆみ ⑥産業構造の変化と企業 	<p>私たちの生活と密接にかかわる経済の基本的なしくみを理解し、企業の活動内容、企業の負っている社会的責任について理解し、株式会社の特徴についてまとめる。</p>	
12	<ul style="list-style-type: none"> ⑦日本の農業 ⑧労働問題、環境問題 ⑨社会福祉と社会保障 	<p>労働運動の展開と労働基本権について理解し、日本の社会保障制度の特徴、少子高齢社会の課題について理解する。</p>	学年末考査
1	<p>6. 国際経済と日本の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国際分業と貿易 	<p>自由貿易と保護貿易の違いについて考え、自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割について理解する。また、国際経済機構や地域的経済統合にはどのようなものがあるか理解し、国際社会のために日本は何をすべきか考える。</p>	
2	<ul style="list-style-type: none"> ②国際収支と為替相場 ③進む地域経済統合 ④国際社会のこれから 		
3	<p>7. 民主社会に生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的な考え方 ③近代市民社会から大衆社会へ ④豊かな社会の実現に向けて 	<p>哲学や宗教の役割を理解するとともに、人生を豊かに生きるとはどういうことなのかを多角的に考察する。平等な社会の実現に向けて、差別を生み出す偏見について考え、それを克服して、ともに生きるために私たちは何をすべきか、自分自身の問題として考える。</p>	

令和5年度 数学応用B（3年選択B群） シラバス

数学科	科目名	数学応用B (3年選択B群)	担当者	
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科			
履修学年	第3学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	指数関数・対数関数，微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。			
評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	数学的活動を通して，指数関数・対数関数，微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識し，それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的に考えたりすることを通して，指数関数・対数関数，微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身につけている。	指数関数・対数関数，微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に考察し，表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	指数関数・対数関数，微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則，用語・記号などを理解し，知識を身につけている。
評価方法	・学習活動状況 ・課題等の提出状況	・各定期考査 ・課題等の提出状況	・各定期考査 ・演習問題	・各定期考査 ・演習問題
使用教科書	・教科書 … 最新 数学Ⅱ：改訂版（数研出版）			
その他	更なる学習効果を高めるため、定期考査前に対策プリントを活用する。			

	校長	教頭
押印		

月	単元名		学習内容と方法	備考
4	第5章 指数関数と 対数関数		1. 指数法則 2. 指数関数とそのグラフ	
5			3. 対数 4. 対数の性質 5. 対数関数とそのグラフ	中間考査 (5月)
6			6. 常用対数 練習問題 問題	期末考査 (6月)
7	第6章 微分法と 積分法	第1節 微分法	1. 平均変化率と微分係数	
9			2. 導関数	
10			3. 微分法の公式 4. 接線 5. 関数の増減	中間考査 (10月)
11			6. 関数の極大・極小 7. 関数の最大・最小 8. 方程式・不等式への応用	
12		第2節 積分法	9. 不定積分 10. 不定積分の計算	期末考査 (11月)
1			11. 定積分 12. 定積分の性質	
2			13. 面積 研究 3次関数のグラフと面積	学年末考査 (1月)

令和5年度 数学基礎A（3年選択A群） シラバス

数学科	科目名	数学基礎A (3年選択A群)	担当者	
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第3学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	数学I・Aの基礎から標準までの内容をまとめた問題集を活用することにより、数学I・Aの学習効果を高めることを目標としている。			
評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	数と式、2次関数、図形、場合の数における考え方に興味を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的に判断しようとする。	数と式、2次関数、図形、場合の数において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、2次関数、図形、場合の数において、事象を数学的に表現・処理する方法や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式、2次関数、図形、場合の数における基本的な概念、原理や法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	・学習活動状況 ・課題等の提出状況	・各定期考査 ・課題等の提出状況	・各定期考査 ・演習問題	・各定期考査 ・演習問題
使用教材	書き込み式シリーズ パラレルノート数学I+A（数研出版）			
その他留意点	①更なる学習効果を高めるため、定期考査前に対策プリントを活用する。 ②演習を多く取り入れることによって学習の定着度を上げる。			

	校長	教頭
押 印		

令和5年度 数学基礎A 学習計画

月	単元名		学習内容と方法	備考
4	数学 I	第 1 章 数と式	1. 整式 2. 整式の加法・減法・乗法 3. 展開の公式 4. 式の展開の工夫 5. 因数分解 6. いろいろな因数分解 7. 実数 8. 根号を含む式の計算 9. 不等式 10. 不等式の性質 11. 1次不等式の解き方 12. 連立不等式	中間考査 (5月)
5				
6	数学 I	第 3 章 2次関数	18. 関数 19. 関数とグラフ 20~24. 2次関数のグラフ 25. 2次関数の最大・最小 26. 2次関数の決定	期末考査 (6月)
7				
9	数学 I	第 4 章 図形と計量	31. 鋭角の三角比 32. 三角比の利用 33. 三角比の相互関係 34. 三角比の拡張 35. 三角比が与えられたときの角 36. 正弦定理 37. 余弦定理 38. 三角形の面積	中間考査 (10月)
10				
11	数学 A	第 1 章 場合の数と確率	1. 集合 2. 集合の要素の個数 3. 樹形図、和の法則 4. 積の法則 5. 順列 6. 円順列と重複順列 7. 組合せ 8. 確率の意味 9. 確率の計算 10. 確率の基本性質 11. 和事象の確率 12. 余事象の確率 13. 独立な試行の確率	期末考査 (11月)
12				
1	数学 A	第 2 章 図形の性質	16. 角の二等分線と比 17. 三角形の外心・内心・重心 19. 円周角の定理 20. 円に内接する四角形 21. 円と接線 22. 接線と弦の作る角	学年末考査 (1月)
2				

令和5年度 (3年選択A群：数学基礎B) シラバス

数学科	科目名	数学基礎B (3年選択A群)	担当者	
履修学科	情報技術・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第3学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	中学から高校までの数学に関する一般的な知識や思考力を身につける。			
評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	数と式，2次関数，図形と計量における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	数と式，2次関数，図形と計量において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式，2次関数，図形と計量において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式，2次関数，図形と計量における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価方法	・学習活動状況 ・課題等の提出状況	・各定期考査 ・課題等の提出状況	・各定期考査 ・演習問題	・各定期考査 ・演習問題
使用する教材	・教科書 … 整理と演習 完成ワーク (増進堂)			
その他	① 更なる学習効果を高めるため、定期考査前に対策プリントを活用する。 ② 演習形式で授業を行う。			

	校長	教頭
押印		

令和4年度 数学基礎B 学習計画

月	単元名		学習内容と方法	備考
4	数学 I	数と式の計算	1. 数の計算 (1) ~ (4) 2. 式の計算 (1) ~ (3) 3. 因数分解 (1) (2) 4. 約数と倍数 (1) (2) 5. 根号を含む式の計算 (2) 6. 式の値	
5				中間考査 (5月)
6	数学 I	方程式・不等式	1. 1次方程式 2. 比例式 3. 連立方程式 4. 2次方程式 (1) (2) 5. 1次不等式 6. 2次不等式 7. 文章問題 (1) ~ (4)	期末考査 (6月)
7				
9	数学 I	2次関数のグラフ	1. 1次関数とグラフ (1) (2) 2. 2次関数とグラフ (1) (2)	
10	数学 A	図形の性質	1. 図形と角 2. 合同な図形 3. 相似な図形 4. 円 5. 図形の面積 6. 三平方の定理 7. 立体の表面積・体積	中間考査 (10月)
11				数学 I
12	数学 A	場合の数と確率	1. 規則性の問題 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ 5. 確率 (1) (2)	
1				学年末考査 (1月)
2				

普通	科	科目名	化学	担当者	
履修学科		情報技術科、インテリア科、デザイン科、調理科			
履修学年		第3学年	履修単位	2単位	
概要及び目標		①自然の事物・現象に関することを題材にして、基本的な概念、原理、法則を理解すること。 ②実験や観察を通して、科学的な自然観を身につけること。 ③物質をよく知ることにより、現代社会をより広い視野で捉え、的確な判断を下すことができるようになること。			
評価基準及び方法		授業に取り組む姿勢 ノート 定期テスト			
使用教科書及び教材		改訂新編 化学 (2 東書 化学 309)			
その他留意点		化学を含め、理科では推察、考察することが大事である。授業をただ聞くのではなく、常に自分の知識と照らし合わせ、自ら考えながら授業に臨んでほしい。			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	第1編 物質の状態 第1章 粒子の結合と結晶の構造 1 原子とイオン 2 イオン結合とイオン結晶 3 分子と共有結合	化学基礎で学習した化学結合に基づいて、結晶の成り立ちを理解し、その構造と種類について学ぶ。	
5	4 共有結合の結晶 5 金属結合と金属	結晶の種類によって、どのように性質が異なっているのかを理解する。	
6	第1編 物質の状態 第2章 物質の三態と状態変化 1 粒子の熱運動 2 分子間力と三態の変化	粒子の熱運動からの物質の状態を理解する。	
7	3 状態変化とエネルギー 4 物質の種類と物理的性質	状態変化に伴うエネルギーの出入りや、物質の物理的性質と化学結合との関係を学ぶ。	
9	第1編 物質の状態 第3章 気体 1 気体の体積	気体の体積と圧力・温度の間に成り立つ法則や、複数の種類の気体を混合したときに成り立つ法則について学ぶ。	

	2 気体の状態方程式 3 混合気体の圧力		
10	4 実在気体 第1編 物質の状態 第4章 溶液 1 溶解とそのしくみ 2 溶解度	溶解のしくみや溶解量について学び、水溶液と純粋な水との物理的な性質の違いを理解する。	
11	3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液	分子やイオンよりも大きな粒子の溶液の特徴について理解する。	
12	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱 2 化学反応と光	熱の出入りに関する法則や、結合エネルギー、光に関わる代表的な反応について学習する。	
1	第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解 1 電池 2 電気分解	電池や電気分解のしくみとともに、回路に流れた電気量と物質の変化量との関係についても学習する。	
2	第2編 物質の変化 第3章 化学反応の速さとしくみ 1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度	化学反応の速さの表し方や、濃度・温度などの反応条件を変えたときの速さの変化について学ぶ。	
3	3 化学反応のしくみ	化学反応のしくみについて学ぶ。	

理科	科目名	発展生物	担当者	
履修学科	情報技術科、インテリア科、デザイン科、調理科			
履修学年	第3学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価基準及び方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「関心・意欲・態度」「思考・判断」「観察・実験の技能・表現」「知識・理解」の4つの観点に基づき評価する。 ・ペーパーテスト6割、授業への取り組み（グループワーク、提出物等）4割 			
使用教科書及び教材	東京書籍 「スタンダード生物」 授業に合わせて作成した 「プリント」			
その他留意点	進学希望者に対しては参考書、進学先の傾向問題、進路の講座等個別に指導を行う。			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	生命現象と物質	生体物質と細胞 生命現象とタンパク質	
5	代謝	代謝とエネルギー 呼吸 化学合成 窒素同化	中間考査
6	遺伝子のはたらき	遺伝情報とその発現 遺伝子の発現調節 バイオテクノロジー	
7	有性生殖	減数分裂 遺伝子の連鎖と組換え	期末考査
8			
9	動物の生殖と発生	動物の配偶子形成と受精 動物の初期発生 形成体と誘導 誘導の連鎖	
10	植物の生殖と発生 動物の刺激の受容と反応	被子植物の生殖 植物の器官分化 刺激の受容と反応 刺激の受容のしくみ 動物の行動	中間考査
11	植物の環境応答 生態と環境	植物ホルモン 環境要因 ストレス応答 個体群と生物群集	
12	生態系と生物多様性	個体群とその変動 異種個体群間の関係 生態系と物質生産 生態系と生物多様性	期末考査
1	生物の起源と生物の変遷	生命の起源 生物の変遷 人類の変遷	
2	進化のしくみ	進化とは 個体間の変異とその起源 種分化	
3	生物の系統	生物の系統	学年末考査

理 科	科目名	物理基礎	担当者	
履修学科	情報技術科、インテリア科、デザイン科			
履修学年	3	履修単位	2	
概要及び目標	1. 物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。 2. 目的意識をもって観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身につける。 3. 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。 4. 科学技術の在り方やエネルギー問題について市民が意思決定するために必要な、科学的な知識、能力、態度を身につける。			
評価基準及び方法	各学期における、授業への取り組み状況、定期考査の得点合計、課題プリントの提出などをもとに総合的に評価する。			
使用教科書及び教材	第一学習社「改訂 新物理基礎」 課題プリント、問題演習ワークシート			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	事前学習 1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界	1. 四則の計算 2. 単位と記号 1. 速さ 2. 速度 3. 等速度運動 4. 合成速度と相対速度	
5	1章 直線運動の世界 2章 力と運動の法則	5. 加速度 6. 等加速度直線運動① 7. 等加速度直線運動② 8. 力とは 9. 力のつり合い 10. 力の合成と分解 11. 運動の第1法則	中間考査
6	2章 力と運動の法則	12. 力と質量と加速度の関係 13. 運動の第2法則 14. 運動の第3法則 15. 物体にはたらく重力	
7	3章 日常に潜む力 4章 仕事とエネルギー	18. 摩擦力 19. 液体や気体から受ける力 20. 抵抗のある運動 21. 仕事 22. 仕事の原理と仕事率	期末考査
8			
9	4章 仕事とエネルギー	23. 重力による位置エネルギー 24. 弾性力による位置エネルギー 25. 運動エネルギー 26. 力学的エネルギー	
10	2編 様々な物理現象とエネルギー 1章 熱	1. 熱と温度 2. 物質の三態 3. 熱の移動と保存 4. 熱と仕事 5. 熱効率と不可逆変化	中間考査

11	2章 波	6. いろいろな波 7. 波の伝わり方 8. 波を表す 9. 波の重ね合わせ 10. 波の反射 11. 定常波 12. 音の伝わり方	
12	2章 波 3章 電気	13. 振動する弦 14. 振動する気柱 15. 電気のはたらき 16. 電流と電気抵抗	期末考査
1	3章 電気	17. 回路での電流の流れ方 18. 電力と電力量 19. 電流が作る磁界 20. モーターのしくみ 21. 発電機のしくみ	
2	3章 電気 4章 エネルギー	22. 直流と交流 23. 電磁波 24. エネルギー変換と保存	学年末考査
3	4章 エネルギー	25. エネルギーの利用 26. 放射線の利用 27. 原子力の利用	

体育科	科目名	体 育	担当者	我謝-仲本-伊計-大城-真島
履修学科	情報技術科・インテリア科・デザイン科・調理科			
履修学年	第3学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	選択制授業を実践することにより、生徒一人一人に運動の楽しさや喜びを深く味わわせ、生涯を通して継続的に運動ができる資質や能力を育てる。また、健康・安全面に留意し、各種の運動の合理的実践を通して、運動技能の向上を目指すとともに、けじめある学習活動や基本的な生活態度の育成を目指す。			
評価基準及び方法	「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」「知識・理解」の4観点の内容をもとに各単元で評価基準を作成、出席状況等を加味し総合的に評価する。 ○相互評価・・・・・・・・学習カード、学習ノート、課題レポート ○教師による評価・・・・・・・・テスト、観察			
使用教科書及び教材	○教科書・・・・大修館 現代高等 保健体育（体育理論）			
その他留意点	○生徒の体調管理・器具や施設の安全管理を徹底する。 ○感染症対策を心掛けた授業の工夫 ○授業の自己評価や工夫改善ができるように支援する。			

学習計画

週	学習内容	備考
1~6	オリエンテーション・体育理論・集団行動・体力テスト	
7~11	男子（球技：室内）・女子（水泳・陸上競技）	
12~16	女子（球技：室内）・男子（水泳・陸上競技）	
17	男女(体づくり運動)	
18	男女(体育理論)	
19~24	男子（球技：屋外）女子（球技：屋内）	
25~27	男女(持久走)	
28~31	男女(武道・ダンス)	

1、目標：書道の幅広い活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2、成績評価：①課題作成(70%)②学習態度等の平常点(30%)・学習時の生徒の良い点や、取り組み状況を重視し評価する。また、聞く態度、質問や関心、意欲、道具の扱い方の評価

*①、②、を考慮し総合的に評価する。

3、年間学習指導計画

学期	月	単元	教材内容	指導の重点目標	評価の観点
一 学 期	4	書写から書道へ	・教科書の目次をたどりながら書体を紹介 ・用具、用材、姿勢 ・基本的な筆使いの確認	・書の分野を理解させる(楷書・行書・草書・隸書・篆書・仮名・漢字仮名交りの書) ・書道の執筆法を理解させ、正しい姿勢と運筆法を身につけさせる。	関心・意欲 態度 技能
	5	楷書の学習	・九成宮醴泉銘	・書写との違いを理解させ、芸術書道の意義・内容を理解させる。	関心・意欲 態度
	6	唐の四大家に学ぶ 楷書の基本	・孔子廟堂碑 ・顔氏家廟碑 ・雁塔聖教序	・両古典の比較を通して、それぞれの特徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。	技能 鑑賞
	7	半切作品の制作	・これまでに臨書した古典の中から選択	・半切への文字の配列、字の大小や墨量の変化の表現効果について理解させる。	構想・技能
二 学 期	9	行書の学習	・行書の特徴	・行書の成立、特徴を理解させる。	関心・意欲 態度
	10	蘭亭序の鑑賞と臨書	・蘭亭序の全臨	・半切への文字の配列、文字の大小や墨量の変化の表現効果について理解させる。	技能 鑑賞
	11	書	・これまでに臨書した古典の中から選択		
	12	半切作品の制作			構想・技能
三 学 期	1	篆書の学習	・篆書の特徴	・篆書の歴史的位置付けを理解させ、基本的な篆書の学習により特徴を理解させる。	関心・意欲 態度・技能 鑑賞
	2	仮名の学習	・いろは歌	・平仮名と変体仮名の文字の変化をいろは歌の模写を通して確認させる。	関心・意欲 態度・技能
	3		・変体仮名		鑑賞

郷土の音楽 シラバス

科目名	郷土の音楽	対象学科	全学課（選択）	単位数	2	学年	3年
目標	1. 郷土の音楽になれ、工工四（楽譜）の読み方を学習し演奏することができる。 2. 郷土文化の歴史に興味・関心を持つ						
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「琉球古典音楽 安富祖流工工四 上・中」 琉球古典音楽安富祖流絃声会 ・ 「琉球古典音楽 安富祖流工工四 下」 琉球古典音楽安富祖流絃声会 ・ 「琉球古典音楽 安富祖流工工四 声楽譜・手様譜附教本 第一巻」 琉球古典音楽安富祖流絃声会 						
学習のポイント	郷土の音楽の音階・リズムを知り演奏することができる。 沖縄語（うちなーぐち）・琉歌に親しむ。						
到達目標	郷土の音楽の音階・リズムを知り演奏することができる。 沖縄語（うちなーぐち）・琉歌に親しむ。						
評価の方法	①授業態度 ②出席状況 ③授業での提出物 ④実技試験（期末）						
学習の展開＜年間指導計画の概要＞							
月	単元または項目	学習のねらい			主な学習活動（教材等）		
一学期前半	①オリエンテーション ②開放絃の練習（2h） ③工工四を覚えよう（2h） ④童謡を演奏しよう（2h） ⑤唐船ドリー前奏を弾こう 安波節、 ④早口節 ⑤ていんさぐぬ花 ⑥安里屋ユンタ	① 郷土の音楽の授業の進め方、目標を説明する ② 三線の演奏方法を学び、しっかり音を鳴らすことができる ③ 歌う楽しさを感じる。			① 音楽実態調査と授業での約束確認。 ② 開放絃をしっかり演奏でき、 ③ 姿勢、呼吸法、口形など発声の基本を学習する。（世界一つだけの花、瞳をとじて 他）		
一学期後半	① 渡りぞう、瀧落とし ② 伊計離れ節 ③ 固み節 ④ 遊びションガネー ⑤ 踊りコハデサ節 ⑥ 上り口説 ⑦ 谷茶前 ⑧ 取納奉行 ⑨	①アルトリコーダーの奏法と基本的な運指を練習し、合奏する楽しみを味わう。 ②発声、発音に注意しながら、重唱の響きを味わう。 ③国際理解。曲の旋律の魅力や不思議さを味わう。 ④音符、休符、音名を正しく読んで演奏できるようにする。			①アルトリコーダーで簡単な曲を吹く。 （聖者の行進、アメイジンググレイス、木更、ダニーボーイ他） ② 他のパートをよく聴いて歌う （ほたるこい） ③アジアの音楽を聴き、各国の文化の違いを知る。（アリアン、ケチャ、ガムラン） ④片手での旋律、両手での伴奏をキーボードで演奏する。（高校生の歌集ついで）		
一学期期末考査（ペーパーテスト）実施							

<p>二 学 期 前 半</p>	<p>① イタリア歌曲に挑戦しよう (5h) ② 鑑賞 オペラの世界 (3h) ③ ギターの基礎 (6h) ④ 楽典 音名と音程 (4h)</p>	<p>①歌詞や曲想を理解して表現の工夫ができるようにする。 ②オペラの内容や役柄の様子を知る。 ③クラシックギターの特徴と基本的な奏法を練習し、演奏する楽しみを味わう。 ④音楽を構成する諸要素を理解する。</p>	<p>①外国語の歌詞に慣れ親しんで歌う。 (Santa Lucia, ' O Sole mio) ②オペラの有名な歌唱部分を鑑賞する。 (ラ・ボエーム) ③クラシックギターで簡単な曲を弾く。 (星に願いを 他) ④日、米、独、伊による音名を学習する。 基礎的な音程を学習する。</p>
<p>一 学 期 後 半</p>	<p>⑤ 郷土の音楽 三線 (6h) ⑥ 映画音楽の世界 (3h) ⑦ 音のクリスマスプレゼント (3h)</p>	<p>①郷土の音楽に親しむ。簡単な曲を演奏できるようにする ③映画音楽の特徴を理解し、曲種に応じた歌い方で歌うことができる。 ④協力して曲を完成させ、先生方へ音のクリスマスプレゼントを贈る。</p>	<p>①三線で簡単な曲を弾く。 (安波節、安里屋ゆんた、島人ぬ宝) ③映画音楽を鑑賞し、その楽曲を歌う。 (Oh Happy Day) ④ハンドベル(トンチャイム)で合奏する。 (きよこの夜、もろ人こぞりて)</p>
<p>二 学 期</p>	<p>① 卒業の音楽 (4h) ② ミニコンサートをしよう (10h) ③ 1年間のまとめ (2h)</p>	<p>①卒業生を祝う気持ちを高める。 ②自作の曲や既習曲などで演奏発表する力を高める。 ③学習の成果を再確認し、次年度への意欲を高める。</p>	<p>①卒業式で演奏する歌を練習する。 (卒業式歌 他) ②2～8人のグループ演奏の準備と練習をする。 ③1年間の学習を振り返る。</p>

楽典および音楽史の領域については、高校生の為の新・楽典ワーク（ドレミ楽譜出版社）で年間を通して学習します。

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ		
履修学科	全学科	履修学年	第3学年	履修単位	2単位
概要及び目標	①日常的な話題について、英語で聞いたことや読んだことを理解し、表現する基礎的能力を養う。 ②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。				
評価基準及び方法	①定期考査 ②小テスト ③提出物 ④暗唱テスト、板書発表 ⑤評価の割合・・・定期考査 7割 提出物・暗唱テスト・その他 3割 ＊定期考査の無届不受験は0点、後日受験は8割を目処に評価する。				
使用教科書	Revised COMET English Communication II (数研出版)				

学習計画

月	単元名	学習内容
4	オリエンテーション 自己紹介	
4 5	Lesson 8 Do We Need That?	<ul style="list-style-type: none"> 日本のサービスは過剰？外国の人々から見た考察 使役動詞 (make / let / have) 相手の考えを尋ねる表現 What do you think of ~?
5 6 7	Lesson 9 Changing Feelings	<ul style="list-style-type: none"> 落ち込んだときに気分を変える効果的な考え方とは 関係代名詞の継続用法 (, who / which) 同情する表現 That' s too bad.
8 9	Lesson 10 Ban Shigeru, Architect of Paper	<ul style="list-style-type: none"> 紙管を使った建築で世界的に知られる建築家, 坂 茂さん 関係副詞 計画を伝える表現 I' m thinking of ~ing. / I' m going to ~.
10 11	Lesson 11 Win for Our Nation	<ul style="list-style-type: none"> 南アフリカのマンデラ大統領とラグビー代表チームの挑戦 知覚動詞+O+動詞の原形 / ~ing 人を誘う表現 How about ~ing?
12 1 2	Lesson 12 From Small Factories to the World	<ul style="list-style-type: none"> 世界に誇る日本の町工場の開発力 仮定法過去・仮定法過去完了 人に情報を伝える表現 According to ~

沖縄県立浦添工業高等学校 令和5年度シラバス

英 語 科	科目名	実践英語 B	
履修学科	全 学 科 選 択 科 目		
履修学年	第 3 学 年	履修単位	2 単 位
概要及び目標	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。</p> <p>具体的な言語活動は次の通り。</p> <p>ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。</p> <p>イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。</p>		
評価基準及び方法	<p>①定期考査 ②小テスト ③提出物 ④音読及び暗唱テスト、板書発表 ⑤評価の割合…定期考査 7割 提出物・暗唱テスト・その他 3割</p> <p>*定期考査の無届不受験は0点、後日受験は8割を目処に評価する。</p>		
使用教科書等	<p>・ My Passport English Conversation (文英堂)・プレップイングリッシュ (旺文社)</p>		
その他の履修上の注意事項等	<p>将来様々なシーンにおいて英語で積極的にコミュニケーションをはかろうとする姿勢で授業にのぞむこと。</p>		

評価の観点, 評価規準, 評価方法

<p>評価の観点</p> <p>① コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <p>② 表現の能力：話すこと (S), 書くこと (W)</p> <p>③ 理解の能力：聞くこと (L), 読むこと (R)</p> <p>④ 言語や文化についての知識・理解</p>	<p>評価対象</p> <p>(a) 授業中の活動</p> <p>(b) 発表</p> <p>(c) 課題の提出</p> <p>(d) 小テスト・定期考査</p>
---	--

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4		オリエンテーション	自己紹介
5	CULTURE TALK 5 Letters / E-mail	手紙やメールの書き方	
6	Lesson6 Going Shopping	・ほかのサイズや色があるかたずねるとき ・試着してもよいかたずねるとき	買い物
7	Lesson 7 Public Transportation	・場所をたずねるとき ・アドバイスをするとき	公共交通
9	CULTURE TALK 7 Japanese Manners / Katakana Words	日本の習慣の説明の仕方	
10	Lesson8 Getting Help	・相手の様子をたずねるとき ・言い換えるとき	トラブル
11	CULTURE TALK 8 Traditional and Pop Culture	文化の違いの説明の仕方	
12	Lesson 9 Going Out	・誘うとき ・念を押すとき	行楽
1	Lesson10 Taking a Flight	・好ましくないことを伝えるとき ・理由をたずねるとき	空港・飛行機内
2	CULTURE TALK 10 Cooking	順序に沿って行う作業の説明の仕方	

観点	箇所	評価規準	評価方法
①関心 意欲 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ TALK IT UP ・ Key Expressions ・ Your Turn 	<ul style="list-style-type: none"> ○ モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。 ○ 間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 ○ 積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 	(a) (c) A—B—C
②表現 の 能力	W <ul style="list-style-type: none"> ・ TRY IT OUT ・ CULTURE TALK 1 ・ CULTURE TALK 3 ・ CULTURE TALK 5 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだ文法を使って、文章を書くことができる。 ○ 自分のことや与えられた課題について書くことができる。 ○ 紹介するトピックを決め、原稿を書くことができる。 ○ つなぎの言葉を使って文章を書くことができる。 ○ パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。 	(a) (b) (c) (d) A—B—C
	S <ul style="list-style-type: none"> ・ TALK IT UP ・ Key Expressions ・ Your Turn 	<ul style="list-style-type: none"> ○ モデル会話を英語らしい発音で発話することができる。 ○ 例文を英語らしい発音で発話することができる。 ○ 自分のことや与えられた課題について話すことができる。 ○ 紹介するトピックを決め、発表できる。 	(a) (b) A—B—C
③理解 の 能力	L <ul style="list-style-type: none"> ・ LISTEN UP ・ KEY EXPRESSIONS ・ Your Turn 	<ul style="list-style-type: none"> ○ モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選べる。 ○ 発音に関する語句や英文を聞き、正しい解答を選べる。 ○ パートナーの言ったことを、正しく聞き取れる。 	(a) (b) (c) A—B—C
	R <ul style="list-style-type: none"> ・ TALK IT UP ・ Paragraph 	<ul style="list-style-type: none"> ○ つなぎの言葉の使い方を理解している。 ○ パラグラフの構成を理解している。 	(a) (d) A—B—C
④知識 理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ TALK IT UP ・ CULTURE TALK 7 ・ CULTURE TALK 8 ・ CULTURE TALK 10 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろんなトピックについて、内容を理解することができる。 ○ それぞれのページで学んだ文法を理解している。 ○ 学習した文法を理解し、知識として定着している。 	(a) (c) (d) A—B—C

調理科	科目名	家庭総合	担当者	幸地ひより 長田なみ子	校長	教頭
履修学科	情報技術科、インテリア科、デザイン科					
履修学年	第 3 学年	履修単位	2 単位			
概要及び目標	「家庭総合」は2・3学年で2単位ずつ学習する。3学年では「保育」、「食生活」、「住生活」「持続可能な社会」「生活設計」の各分野を学習し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる					
評価基準及び方法	定期テスト、授業態度、および提出物等総合的に判断し、1・2学期は素点。学期末5段階評価で行なう。					
使用教科書及び教材	家庭総合（東京書籍） その他資料その都度配布					

学習計画

月	単元名	学習内容	備考
4	オリエンテーション	家庭総合の学習意義・内容・評価・注意点など	
5	第6章 食生活をつくる	1. 食生活の課題について考える 2. 食事と栄養・食品	
6	第6章 食生活をつくる	3. 食生活の安全と衛生 4. 生涯の健康を見通した食事計画	
7	第6章 食生活をつくる	5. 調理の基礎 6. 食生活の文化と知恵 7. 健康につながる食事計画 調理実習①	
9	第2章 子どもと共に育つ	1. 命を育む 2. 子どもの育つ力を知る 3. 親として共に育つ 4. 子どもとの触れ合いから学ぶ 5. これからの保育環境 <u>*体験的活動</u> ①妊婦体験 ②保育のおもちゃ製作	
10	第8章 住生活をつくる	1. 住生活について考える 2. 住生活の計画と選択	
11	第8章 住生活をつくる	3. 住生活の文化と知恵 4. これからの住生活 調理実習②	
12 1 2	第9章 生活を設計する	1. 生活設計とは 2. 自立し共に生きるために 3. これからの社会を創造する	